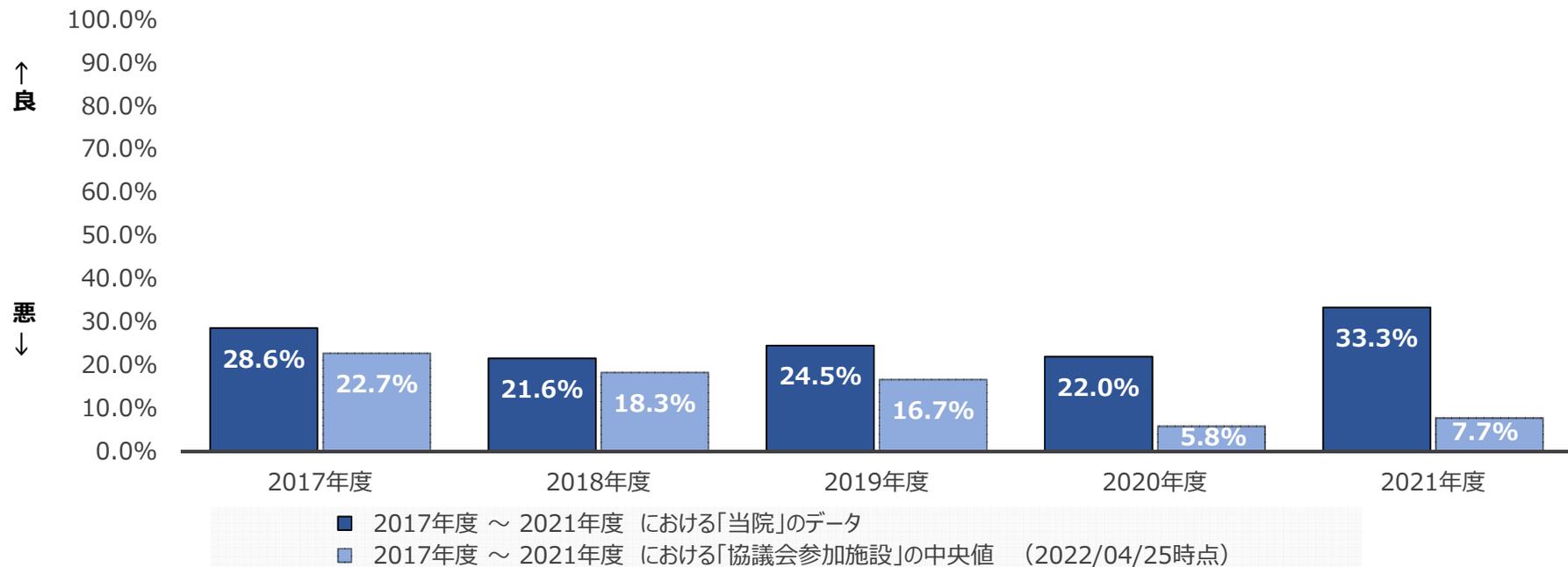


## 【21】誤嚥性肺炎、摂食指導実施率



### <定義>

$$\frac{\text{(分子) 分母のうち、摂食機能療法が実施された患者数}}{\text{(分母) 誤嚥性肺炎の退院患者数}}$$

### <コメント>

食物や唾液などを気管、肺などに誤って飲み込むことを誤嚥といい、加齢や脳卒中後遺症などで多くみられます。

現にある機能を生かしたり、食事内容を工夫することにより、誤嚥に至る率を抑えることが誤嚥性肺炎を避ける方法の一つです。

病状により指導内容は異なりますが、今回の仕様では診療報酬請求上で該当する指導の率をみています。

高齢患者の増加により、誤嚥性肺炎は今後も増加することが予測されるので、当院ではTQM活動の一環として言語聴覚士、看護師、栄養部を中心に嚥下指導マニュアルが作成され、誤嚥性肺炎の改善に取り組んでおりますが、2017、2018、2019年度は調査参加病院の中央値レベルでした。2020年度、2021年度とコロナ禍において協議会参加施設の中央値は低下してありますが、当院の比率は増加しています。

TQM：組織全体で医療やサービスの質を継続的に向上させるための管理手法